

# 常なる磐

つねなる いわ

令和3年1月7日(木)

## ◇ 大掃除を経て、滝山寺のすごさを知る

あけましておめでとうございます。今年もよろしく申し上げます。

さて、昨年末。令和2年を締めくくるにあたり、校長室の拭き掃除と掲示物の刷新を念頭に置いて整備にとりかかる。しかし、いざ始めてみると、掲示については刷新というよりも厳選の方向に。大半の掲示は、校内壁面各所に移動させた。校長の独占よりも皆で見る方がよい。

「これだけは」と校長室に残した掲示が4点ほどある。

- ①安戸にあった旧校舎の校舎写真
- ②本年度の航空写真（①の隣りに）
- ③校長就任時に知り合いから頂いたドライフラワーのリース
- ④滝山寺三尊像写真（聖観音菩薩立像・梵天立像・帝釈天立像）

自席の左側に①と②、右前方に③、正面（校長室扉上）に④を配置し、視線を上方に移せば全てが視界に入ってくる



◀左：航空写真  
右：旧校舎

ドライフラワー  
リース▶



◀滝三寺三尊像

- 左：帝釈天立像  
中：梵天立像  
右：聖観音菩薩立像

写真撮影すると、梵天立像の上に神々しい光が……蛍光灯の反射です。

この場をお借りして、「滝三寺三尊像」について説明したい。

実はこの三尊像、【運慶作】である。

※湛慶（運慶の子）との合作

運慶作と言え、東大寺南大門の「金剛力士像※国宝」、通称「阿吽（あうん）の像」が有名だ。



ちなみに、「阿吽の呼吸」の由来が「阿吽の像」にあるとの見解は微妙なところで、神社の「狛犬（こまいぬ）」の方が歴史的には古いらしい。

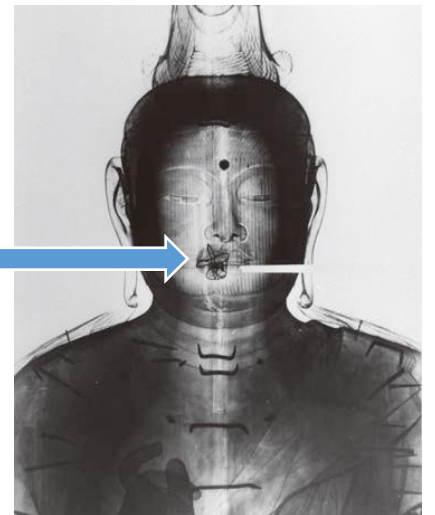
#### <滝山寺がすごい理由>

運慶作と認められた現存する仏像は、全国に31体しかない。

関東が13尊、近畿が15尊、そして愛知・岡崎市・滝山寺の聖観音菩薩立像をはじめとする3尊（分散なし）であるから、いかに歴史的価値が高いかが分かる。国宝に極めて近い国定重要文化財である。

【聖観音菩薩立像】は、調査によりX線透視撮影をした際、頭部内に針金でつるした小さな紙包みが発見される。もともと滝山寺に伝わる縁起（書物）の中でこの存在が綴られていたが、科学により立証された形だ。

頼朝と等身大の【聖観音菩薩立像】頭部の紙包みの中身は、【鎌倉幕府開府の源頼朝の歯と鬚（あごひげ）】。つまり、頼朝の形見である。※髭（口上ひげ）、髯（頬ひげ）



滝山寺に残る三尊像は、源頼朝の三回忌に向けて制作されたもので、常磐の滝山寺で三回忌法要が行われているのである。

この法要を行ったのが【式部僧都 寛伝】。源頼朝と唯一無二の友であり、滝山寺の住職である。

法要が行われたのは1201年。年月にして780年前だ。

800年近い長い年月を経ても三尊像が散財せず、よい状態のまま現存する奇跡が滝山寺にはある。